

自己評価報告書

平成 23年 4月 13日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20510222

研究課題名（和文）ディアスポラとしてのニューヨークのハイチ系住民に関する学際的研究

研究課題名（英文）A Interdisciplinary study on the Haitian Diaspora in New York

研究代表者

村田 勝幸（MURATA KATSUYUKI）

北海道大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：70322774

研究分野：アメリカ（史）研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：北アメリカ・移民研究・ニューヨーク・人種

1. 研究計画の概要

本研究は、1960年代以降アメリカ合衆国、特にニューヨークへと渡ったハイチ人移民とその子孫を対象に、かれらの特殊な社会的な位置や、かれらと人種を同じくするアフリカ系アメリカ人との関係、さらには他の旧西インド諸島系住民との関係を、ディアスポラという概念を軸に多角的・学際的に分析することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

最初の2年度（2008年度と2009年度の前半）では、ディアスポラ概念からニューヨークのハイチ系を捉えるという理論的な分析と、かれらを受容しているニューヨークの人種・エスニックな環境に関する実証的な分析を並行して進めることで、本研究プロジェクト全体の核となる論点を絞り込んできた。その過程で、当初予定していた、アメリカ移民難民政策という切り口からディアスポラ概念に迫るといったアプローチは、ニューヨークのハイチ系住民が置かれた歴史社会状況を分析するにはあまり有効ではないと判断するに至った。その点を踏まえ、2010年以降は特に、21世紀転換期にニューヨークで〈黒人〉住民、中でも特にハイチ系住民を標的として起こった暴力事件に関して実証研究を進めている。このテーマあるいは論点への注目は、次のような理由で重要であった。ハイチ系住民はハイチ出身者としての「特殊な」エスニシティを持つと同時に、アメリカにおいては「黒人」として（主に外在的に）規定されてきた。そうした人種規定が最も劇的な形でなされるのが、かれらが人種主義的な暴力に直面した場面である。そこでは、アフリカ系アメリカ人や他の西インド諸島系住民とハイ

チ系住民は、同じ「黒人」として人種主義的暴力に共に対峙することとなった。もともとは「アメリカに住むハイチ人」と同義の「ヘイシャン・ディアスポラ」であったものが、アフリカ出自という点を共有した「アフリカン・ディアスポラ」へと重点がシフトする契機となっていったのである。もちろん、ハイチ系住民の場合、「黒人」住民でありながら「ハイチ性」も失わずに有しており、その重層性がかれらのディアスポラの性質の基底にある。以上を踏まえ、アフリカ系アメリカ人や他の西インド諸島系住民との関係性という論点に強く関わるテーマ・対象として、現在、ハイチ系住民を巻き込んだ人種主義的な暴力事件に関する実証分析を引き続き進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）アメリカ移民難民政策からニューヨークでの人種主義的な暴力事件へと切り口の軸をシフトしたため計画の遅延も心配されたが、後者の新たな論点に関する実証分析が順調に進んでいるため、最終年度末までに一定程度の成果が期待できると思われる。

4. 今後の研究の推進方策

上述した、ニューヨークでの人種主義的な暴力事件の具体的事例として、現在、1997年と2000年にハイチ系住民を標的として起こった、警察の残虐行為に関わる事件の分析を進めている。その研究成果の一部は、「アフリカ系アメリカ人コミュニティ形成史研究会」として2012年3月に公刊予定の編著の中で発表する予定である。加えて、本県有プロジェクトの核となる同研究成果、「5. 代表的

な研究成果」に記した業績、さらに本研究補助金受給以前に発表した研究成果も一部は含めたものを、『アフリカン・ディアスポラのニューヨーク』（仮）として近く公刊することを予定している。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

村田勝幸「〈人種の調停者〉の憂鬱——デイヴィッド・ディンキンズとクラウン・ハイツ暴動」『アメリカ史研究』第32号、87-106頁、2009年、査読有

〔学会発表〕（計 1 件）

①村田勝幸「〈ヘイション・ディアスポラ〉から〈アフリカン・ディアスポラ〉へ——21世紀転換期ニューヨークにおける警察暴力が構築する人種連帯」、アフリカ系アメリカ人コミュニティ形成史研究会、2010年9月20日、専修大学神田キャンパス

〔図書〕（計 1 件）

①村田勝幸、彩流社、『アメリカの愛国心とアイデンティティ』（金井光太郎編）、2009年、191-210頁